

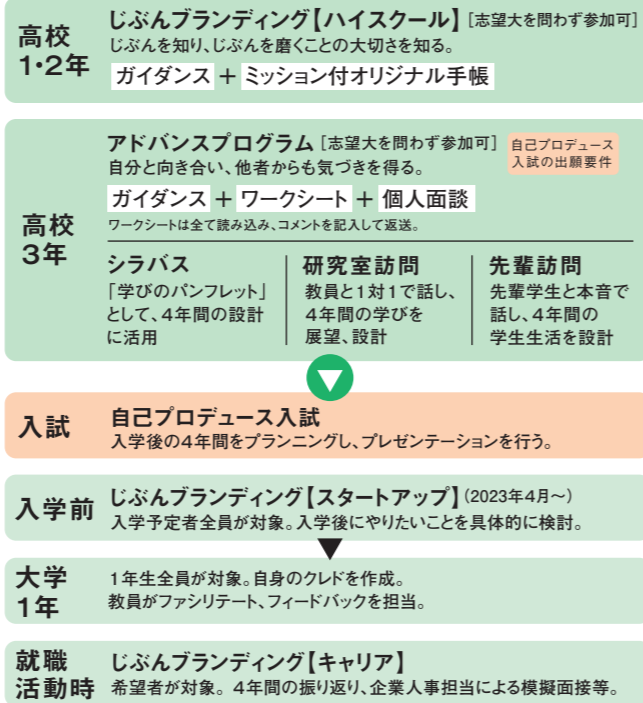


キャンパス / 愛知県名古屋市  
学生数 / 1,460人  
学部 / 経営、人間健康、教育

## キャリア教育でつながる高大接続の取り組み例

課題	「オンリーワンを、一人に、ひとつ。」を具現化する
推進体制	他課の職員、教員、学生の協力を得ながら、入試広報課が推進。「アドバンスプログラム」ではワークシートへのコメント記入を他課の職員も担当。「自己プロデュース入試」では、研究室訪問、先輩訪問の受け入れを、教員、学生が行う。
高校との関係づくり	「じぶんブランディング【ハイスクール】」や模擬講義などにより、関係性の強い高校が数十校あり、主体性の育成やキャリア教育について、高校教員と深く話す。高校教員以外からの話のほうが生徒に響くとのことで、出張開催のオファーは途切れない。
入試の工夫	▶「主体性」を全入試に共通する評価軸に。全入試方式において、調査書による主体性等の評価を点数化(5点)。 ▶一般選抜の受験者にも自己理解をしたうえで受験を促すため、「アドバンスプログラム」を受講すると検定料が半額になるしくみを設けている。

### 入学前から就職活動まで連続的に主体性育成プログラムを提供する



# 「じぶんブランディング」で 高校生、在学生の主体性を育てる

## 愛知東邦大学

CASE STUDY

高校生の進路選択に向き合うことをミッションに定めた同大学の入試広報課。選択に必要な主体性を育てるプログラムを提供し、成果を自学の教育にも展開する。



入試広報課 課長  
**三輪 哲也**

みわてつや●2000年機械工具商社に入社し、BtoBの営業を担当。2013年愛知東邦大学に入職。総務課を経て、2016年に入試広報課配属。ブランド推進委員会のメンバーとして大学のブランディングにも従事。2018年より現職。

**リブランディングを機に入試広報の役割を再定義**

募集に苦戦していた2016年、全学でリブランディングに着手しました。2年間の検討を経て2018年に策定したコンセプトフレーズが、「オンリーワンを、一人に、ひとつ」。学生は自分の強みを知り、磨き続ける。教職員は学生個々の意欲や能力を引き出す。本学が大切にしてきた姿勢を表現したものです。

コンセプトに基づいて、入試広報課では何ができるかを考えました。常々、受験時に自身のキャリアと真剣に向き合い、悩む高校生が多いと感じていました。私たちは、まさに人生の岐路に立ち合っているのではないかと。この視点から、2つの施策を打ちました。

1つ目は、人生の岐路を迎える前から将来を考え始められる、高

1・2生向けのプログラムです。「じぶんブランディング」と命名しました。オープンキャンパス、高校出張にて開催、入試広報課員が自分を知る、自分を磨くことの大切さを語り、そこで得た共感を体感に変える「じぶんブランディング手帳」を配布します。「未訪問の都道府県への一人旅を計画する」など、48のミッションがあり、そのワークによって自己探究を習慣化できるものです。

これは進路学習の位置付けなので、大学案内は配りません。高校生の状況を知り、高校での探究学習などを通じた主体性を育む教育の知見を吸収することが、大学教育にも参考にできる大きなメリットなのです。ゆくゆくは主体性育成をテーマにした高大連携組織をつくり、そのメンバー間で悩みや手法を共有したいと考えています。

2つ目は、総合型選抜「自己プロデュース入試」です。受験生は、シラバスや研究室訪問などで集めた情報を基に、4年間の大学生活プランをシートにまとめて、プレゼンテーションを行います。

**主体性を育む教育の波を大学起点で広げていく**

高大接続のこれらの取り組みが功を奏し、2020年度には学生募集が好転しました。

「じぶんブランディング」をベースに、2023年度からは、入学者全員を対象に、入学前教育「じぶんブランディング【スタートアップ】」を始める予定です。入学予定者は入学後に取り組みたいこと、大切にしたい価値観などを考え、入学後、必修の初年次教育の授業で、これらの内容を基に自身の\*クレドを作成します。各教員は作成のファシリテート、成果物へのフィードバックを行います。就職活動時期には、希望者に「じぶんブランディング【キャリア】」を実施。4年間の振り返りを行います。

人の成長、変化を推し進めるのは、行動の積み上げと、そこから得た「体感」、そして振り返りで、これは大学時代に限ったことではありません。高校や社会でも成長のきっかけが与えられる世の中を、大学が率先してつくっていく必要があるのではないのでしょうか。私自身、人生を振り返ると、自身の価値観が明確になり、行動も変化しました。そんなチャンスを自学にいくつも仕掛けると同時に、きっかけづくりの重要性を高校や社会と共有していきたいと思っています。

\*構成員一人ひとりの信条、行動指針

取材・文 / 児山雄介 撮影 / コンドウミカ

### 注目! 全学を挙げて高大接続に取り組み 自学の教育や学生支援に生かす

愛知東邦大学では、入試を含む高大接続を教職員が高校生と接する機会と捉え、大学全体として取り組む機運を高めている。

総合型選抜出願者に事前参加を課している「AOガイダンス」を、2020年度に「アドバンスプログラム」にブラッシュアップした。自己理解を促すワークシートを取り入れ、職員がその内容を掘り下げる個人面談も行う。職員は後日、提出されたワークシートにコメントを記入して返送する。コメントの記入は、2022年度からは他課の職員にも依頼。それには、学生対応の力を高めたいという意図がある。アドバンスプログラム参加者の出願率は約50%に上る。

自己プロデュース入試では、入学後のプランのプレゼンテーションに向けた材料としてシラバスを積極的に公開するとともに、希望者に研究室訪問、先輩訪問の機会を与えている。教員は、授業や研究に関心を持つ入学者が増えてモチベーションが向上、高校生の訪問を受けた学生には、大学生活の中間地点で自らのキャリアをあらためて見直すといった効果が見られているという。

#### 自己プロデュース入試の流れ

